

## 題目

「親の養育が社会的情報処理と自己制御に及ぼす影響—養育・しつけ態度としつけ状況方略の弁別的効果—」

## 著者

吉澤寛之 岐阜聖徳学園大学

## 分類

調査研究

## 掲載誌

2010年 日本教育心理学会第52回総会発表論文集 p. 318.

## 問題および目的

親の養育が子どもの社会的情報処理や自己制御などの社会性に及ぼす影響について、養育効果が子どもに特定の自我状態として内在化された結果、社会性に影響する媒介モデルを検証する。本研究では、恒常的な養育・しつけ態度と、具体的場面で用いるしつけ状況方略の各効果を弁別して検討する。

## 方法

調査対象者：大学生 299名（男 152名、女 145名、不明 2名）と、その養育者 199名（父 7名、母 187名、両親 3名、不明 2名）

調査内容：親の養育態度尺度、親のしつけ尺度、親のしつけ状況方略、自我状態 IUE グラム、ルール適用数・適切性、認知的歪曲尺度、規範的攻撃信念尺度、社会的自己制御

## 結果および考察

媒介モデルを検討するため、まず養育・しつけ態度もしくはしつけ状況方略から IUE 下位概念への影響を検討する重回帰分析を実施した。さらに第 1 ステップで養育・しつけ態度もしくはしつけ状況方略、第 2 ステップで IUE 下位概念を投入し、社会性指標への影響を検討する階層的重回帰分析を実施した。

得られた結果を総括すると、子どもの適応的自我状態を向上させるためには、応答的に養育し、良い行いをほめることが効果的であることが確認された。養育・しつけ態度から社会性指標への影響は自我状態を媒介する自我形成過程であり、適応的な自我状態の形成を通して望ましい社会化を促している。一方で、具体的場面でのしつけ状況方略の影響は自我状態を媒介しない直接効果のみが認められる方略学習過程であり、親のしつける具体的な方略が直接的に子どもに学習されることで望ましい社会化を可能にすることが明らかとなった。

(要約者：吉澤寛之)